

水土里レポート 投稿様式

投稿月日 令和6年3月5日

タイトル 「未来へつなごう！ふるさとの水土里子ども絵画展2023」地域団体賞受賞者取材

水土里レポーター名 水土里ネット福山 佐々田 愛

「未来へつなごう！ふるさとの水土里子ども絵画展2023」で水土里ネット福山優秀賞を受賞された福山市立新涯小学校6年生の宮本桃花さん取材しました。

「未来へつなごう！ふるさとの水土里子ども絵画展2023」には、全国から3,021点の応募があり、その中から入賞31作品、地域団体賞52作品、入選142作品が受賞されました。

水土里ネット福山からは4校から237点を応募し、その中から環境大臣賞1作品、入選6作品、地域団体賞2作品を受賞し、佳作16作品も選ばれ東京都美術館に展示されました。

令和6年2月19日（月）取材は新涯小学校の教室で、お母さんと担任の先生に同席していただきお話を伺いました。

宮本桃花さんは2020年から4年連続絵画展に出展され、毎年賞を受賞しておられます。今年の出展作品のコメント欄に「今までの集大成にしたい」という言葉があり、毎年「くわい」を描き続けている理由をお聞きしたいと思い取材しました。



桃花さんは絵を描くことが好きで、様々なコンクールに出展しているそうです。その中で、なぜくわいを描こうと思ったのかお聞きすると「目の前にくわいがあるから。」と言われました。お母さんが「この子が生まれたころ、家の前の田んぼが稲からくわいへ転作され、それ以来毎日見ているんです。」と教えてくださいました。
※くわいはおせち料理に欠かせない食材で、生産量日本一の福山の特産品です。新涯小学校周辺は古くからの産地です。

毎日観察しているくわいの様子を話してくださいました。

くわいは一粒ずつ植付けされ、カモに食べられないように網をかぶせ芽が伸びて葉が大きくなる頃にはいつの間にか網が外されているそうです。

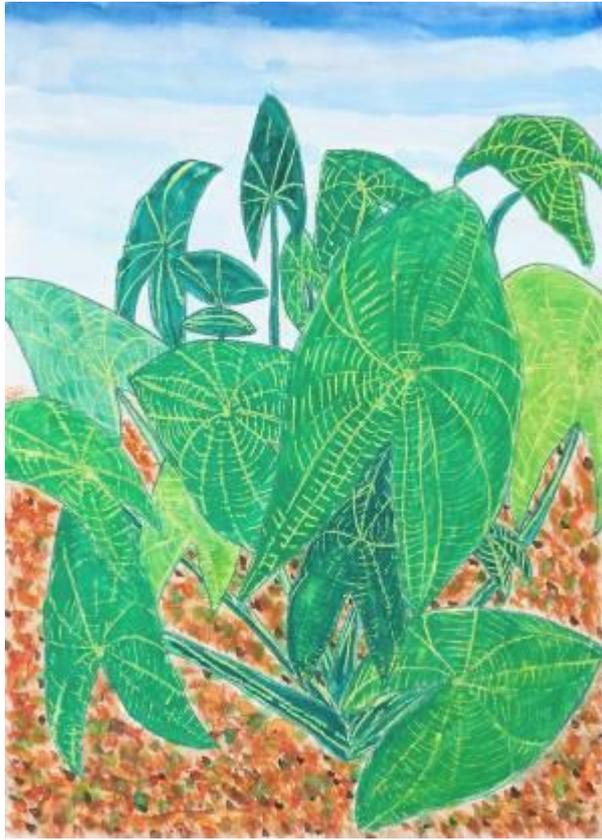
夏、絵画展に出展する絵を描くころは葉が矢じりの形で鮮やかな緑色になってとてもきれいで、1000株に1つしか咲かないと言われている白い花を毎年探していたそうです。今回初めて咲いているところを見つけて絵に描くことができたそうです。

冬になると寒い中、水を使って収穫している様子も大変だなと思いながら見ているそうで、今の季節は土づくりのため耕運されるそうです。

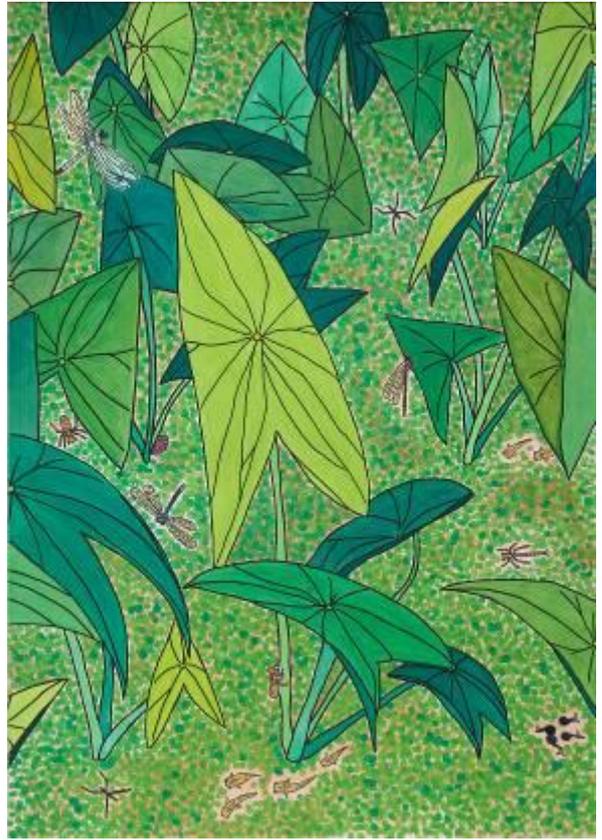
また、くわい畑の中には多くの生き物が生息していて、昆虫や魚などを観察するのも楽しいと話してくれました。本当にくわいが大好きなのが伝わりました。

ふるさとの特産物であるくわいを見つめる眼差しを絵から感じ取れました。くわい生産者にとっても励みになることと思います。

春から中学生になっても絵を描きたいとお話してくれました。新涯小学校や近隣の学校で農業体験の取材や出前授業ができること願って取材を終えました。



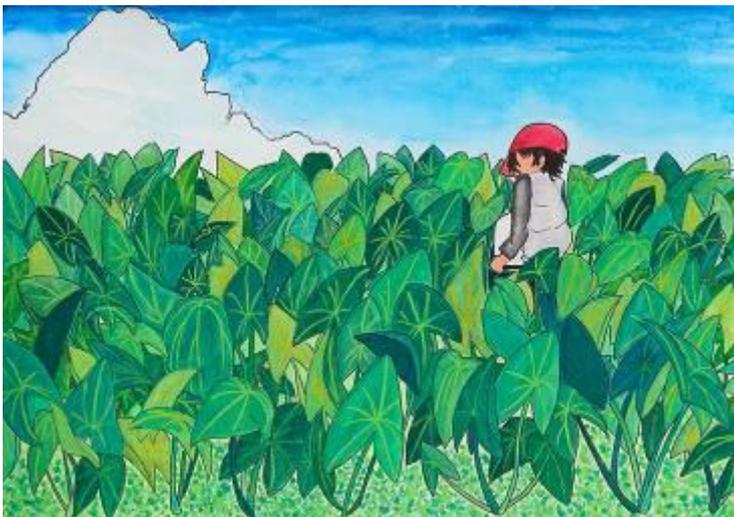
2020年水土里ネット福山くわい大賞
「くわい」



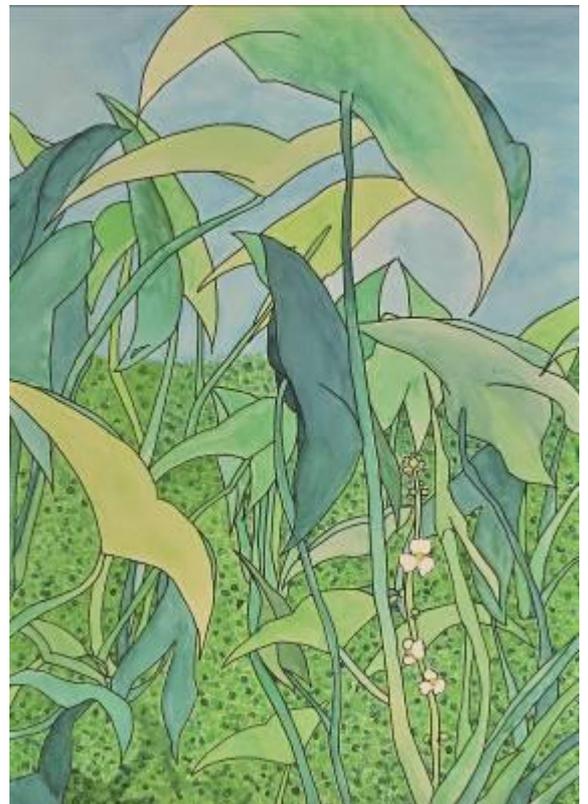
2021年水土里ネット福山くわい大賞
「くわい畑のシェアハウス」



くわい



2022年水土里ネット福山くわい大賞
「くわい～大きくなあれ～」



2023年水土里ネット福山優秀賞
「福山のくわい」